

神経研究の進歩 総目次

1956年～1961年（1巻1号～5巻4号）

1962年～1964年（6巻1号～8巻1号）

1巻1号 '56年1月	売切
神経系疾患の診断法（Ⅰ）	
1巻2号 '56年4月	売切
神経系疾患の診断法（Ⅱ）	
1巻3号 '56年8月	売切
代謝障害と神経疾患（Ⅰ）	
1巻4号 '56年12月	売切
代謝障害と神経疾患（Ⅱ）	
2巻1号 '57年4月	売切
脳の生理に関するシンポジウム	
2巻2号 '57年10月	500円
脳腫瘍	
2巻3号 '58年3月	500円
第1回国際神経科学会展望（Ⅰ）	
2巻4号 '58年5月	売切
第1回国際神経科学会展望（Ⅱ）	
3巻1号 '58年10月	売切
第1回国際神経科学会展望（Ⅲ）	
3巻2号 '59年1月	売切
肝脳疾患（Ⅰ）	
3巻3号 '59年4月	1000円
肝脳疾患（Ⅱ）・小脳	
3巻4号 '59年9月	売切
錐体外路系（Ⅰ）	
4巻1号 '59年11月	売切
錐体外路系（Ⅱ）	
4巻2号 '60年1月	1000円
展望・脊髄血管障害例	
4巻3号 '60年8月	1000円
神経化学懇話会	
4巻4号 '60年8月	売切
興味ある症例の臨床と病理	
5巻1号 '60年10月	売切
神経病理懇話会	
5巻2号 '61年5月	売切
脳血管性障害（Ⅰ）	
5巻3号 '61年9月	1200円
脳血管性障害（Ⅱ）	
5巻4号 '61年12月	1000円
脳血管性障害（Ⅲ）・精神薬理	

5巻4号以前の内容の詳細については7巻2号以前の巻末総目次を参照してください。

'62年3月 6巻1号 1400円

脳炎・膠質細胞（第2回神経病理懇話会）

神経膠細胞の培養……………中沢 恒幸	
追加討論……………米沢 猛	
組織細胞におけるグリア細胞の形態	
とくにその変態と増殖について……………中井準之助	
討論……………富永淳・他	
培養膠質細胞の細胞化学……………岡本 道雄	
討論……………中沢恒幸・他	
膠質細胞の電子顕微鏡的研究……………本陣 良平	
神経病理学の今昔談……………内村 裕之	
膠質細胞の組織及び組織病理……………辻山 義光	
討論……………三宅仁・他	
日本夏季脳炎の組織病理……………武谷 止孝	
追加討論……………松山春郎・他	
追加討論……………横井晋・他	
討論……………上村忠雄・他	
亜急性脳炎の病理……………飯塚 礼二	
討論……………白木博次・他	
脳炎封入体の組織化学……………山本達也・他	
討論……………猪瀬正・他	

'62年7月 6巻2号 1600円

小児神経病学

小児期における神経系の発達	
（生化学的方面）……………中 脩三	
分娩周辺期における神経病学……………馬場 一雄	
小児の髄膜炎、とくに化膿性	
髄膜炎の臨床……………有馬正高・他	
小児期における脳炎の成因と診断……………有馬正高・他	
急性灰白髄炎（ポリオ）……………南浦邦夫・他	
トキソプラズマ症……………瀬長良三郎	
新生児の脳出血……………田 章吾・他	
精神薄弱の病理……………室伏 君士	
精神薄弱の臨床……………小林 提樹	
乳幼児の脳外科手術に対する代謝反応……………長島 親男	
乳幼児の脳腫瘍……………佐野圭司・他	
小児てんかん……………和田 豊治	
汎発性脳硬化症及び近縁疾患……………向井紀二・他	
先天性筋無緊張症の本態について……………福山幸夫・他	
副甲状腺と中枢神経障害……………里吉啓二郎・他	
脂質代謝異常による中枢神経障害……………里吉啓二郎・他	

'62年11月 6巻3号

1400円

神経化学

〔巻頭言〕……………秋 元 波留夫

〔脳の特異物質〕

生体内特に脳内の Phenolic Amines

……………柿 本 泰 男

 α Methyl Dopa に関する研究……………尾崎 正若・他

THI-Euler 変法による Catechol

Amine 測定時、阻害因子となる

“F 物質”(仮称)の存在と動態に

ついて(続報)……………勝木司馬之助・他

Reserpine 投与後の血中 Serotonin

量の増加と JB516前処置のこれに

及ぼす影響……………板東 丈夫・他

兔脳に於ける 5-HT 及び Substance

P の細胞内分布……………片岡 善由・他

改良チオコリン法による神経系の検

索(補遺)……………福 田 哲 雄

マウス脳の粒子性アセチルコリンに

ついて……………黒川 正則・他

脳におけるグルタミンの合成……………高 垣 玄吉郎

二、三薬物の脳内注射によつて発現

する症状と脳グルタミン酸代謝……………斎藤 章二・他

〔神経疾患の生化学〕

アミノ酸代謝の研究アミノ酸及びア

ンモニアの脳内への移行に関する

研究……………沖中 重雄・他

精神神経疾患の脳脊髄液遊離アミノ

酸……………成瀬 浩・他

周期性四肢麻痺の Pathogenesis と

甲状腺の役割……………里吉啓二郎・他

てんかんの間脳機能—インシュリン

反応試験を中心に……………田中 善立・他

LSD 実験精神病に関する二、三の

知見……………鳩谷 竜・他

〔神経化学の技術と方法〕

神経化学の方法……………塚 田 裕 三

脳代謝の動的観察—脳及び血中 PO_2 PCO_2 , pH, Na, K の連続的記録……………後藤 文男・他

脳灌流の方法と問題点……………川 北 幸 男

脳灌流の方法とその問題点—脳灌流

装置について……………山崎晴一郎・他

脳灌流法の問題点……………河井 清・他

組織化学的研究方法の特異性及び限

界……………宇尾野公義・他

組織化学的方法の特徴と限界……………石 井 毅

〔行動の神経化学〕

行動変化に伴う脳内アンモニア、グ

ルタミン及びグルタミン酸代謝の

研究……………塚田 裕三・他

反復電気刺激、無酸素条件による脳

機能の変動とその回復過程の研究……………高橋 良・他

諸減動状態におけるマウスの行動の

特性と脳内物質の刺激に対する

反応……………清水 俊郎・他

ep マウス及び慢性ヒロポン中毒マ

ウスの脳内電解質分布について……………平野 修助・他

Parabiosis による ep マウスの瘻

嚢阻止に関する研究……………森 昭胤・他

〔脳の機能と代謝〕

実験的 Methamphetamine 慢性投

与動物にみられる解糖抑制現象と

精神親和剤の及ぼす影響について……………伊藤 斉・他

中枢神経系の機能と代謝について……………小沢 俊次・他

スクレチオドおよびその関連物質と

けいれん……………平山 皓・他

脳酸溶性 Nucleotide に及ぼす中枢

神経抑制剤の影響……………斎藤 浩哉・他

切片および生体内における脳リン脂

質代謝の研究……………林 浩平・他

GABA, GABOB の中枢作用に対

する追試……………高坂 睦年・他

中枢神経機能とフラビン……………永津 俊治・他

迷路学習を指標とせるラッテ電気瘻

嚢シヨックに及ぼす γ -アミノ酪酸

(GABA)の影響……………春 田 洋 一

運動その他による体液遊離アミノ酸

クロマトグラムの変動……………竹 原 一 雄

〔閉会の辞〕……………江 副 勉

〔原著〕末梢動脈疾患における交感神

経節の病理組織学的研究……………秋 山 洋

'62年11月 6巻4号 1300円

神経解剖

- 小脳—その Subdivision に就て ……武 田 創
視床—大脳皮質との関係を中心にし
て……………新 見 嘉兵衛
脊髄オリブ路の経過について……………草 間 敏 夫
グリア……………細 川 宏
辺 縁 系……………小池上 春 芳
大脳皮質……………小 島 徳 造
視床下部を中心とする形態学……………伴 忠 康
シナプスの電子顕微鏡所見……………本 陣 良 平
脳幹並びに脊髄における上行性伝導
路……………久留 勝・他
脊髄の比較解剖学に関する最近の
二、三の問題点……………関 泰 志
ニューロン説の生い立ち……………万 年 甫

'63年1月 7巻1号 1400円

脳 腫 瘍 (第3回神経病理懇話会)

- 〔開会のことば〕……………猪 瀬 正
外科との関連における脳腫瘍の病理……………景 山 直 樹
脳腫瘍の組織培養……………佐 藤 文 明
実験的脳腫瘍……………西 川 喜 作
脳腫瘍の電顕像……………小 泉 準 三
〔特別講演〕頭蓋内 Meningioma の
臨床……………中 田 瑞 穂
脳腫瘍の分類……………藤 田 哲 也
〔あいさつ〕……………勝 又 正
〔第3回神経病理懇話会抄録〕
〔閉会のことば〕……………吉 村 義 之

'63年3月 7巻2号 1200円

神経疫学・診断検査法

〔神経疫学〕

- 紀伊半島における筋萎縮性側索硬化
症の疫学……………楠 井 賢 造
Epidemiological Studies on Multiple
Sclerosis and Allied Diseases ……黒 岩 義五郎
水俣病の疫学 〔附〕水俣病多発地区
に認められる脳性小児麻痺患者に
ついて……………徳臣晴比古・他
名古屋市における Motor Neuron
Disease の疫学……………祖父江逸郎・他

- Apoplexy (脳卒中) の疫学 ……佐々木 直 亮
新潟地区におけるてんかんの疫学……………植 木 幸 明

〔診断検査法〕

- 小児の神経学的検査法—新生児・乳
児を中心として……………馬 場 一 雄
超音波パルス法による頭蓋内疾患診
断……………田中 憲二・他
誘発筋電図の基礎と臨床……………村 越 康 一

〔原 著〕

- 誘発筋電図の臨床的研究……………小 熊 勇 司
水俣病におけるボルフォリン代謝に
関する研究……………武 田 省 吾
脳幹に主座をもつ亜急性播種性脳脊
髄炎の1剖検例……………原田 憲一・他
延髄・脊髄に著明な脱髄巣を認めた
急性脱髄性脳脊髄炎の病理的考察……………松 本 英 世
痙攣脳の実験的研究 (第1報) 電撃
痙攣家鶏雛の大脳皮質神経細胞像……………本間 俊行・他

'63年6月 7巻3号 1400円

脳研究のあゆみ

- 脳研究所26年の回顧……………小川 鼎三
Nauta 法と知覚運動領野より錐体外
路系諸核への投射……………草間 敏夫
知覚運動領野の投射……………川名 悦郎
猫の聴覚領野よりおこる投射線維群
……………大谷克己・他
黒質の線維結合に関する研究……………益田 栄
新皮質系と大脳辺縁系との機能的連関……………時実 利彦
脳波に及ぼす呼吸の影響……………熊谷 洋・他
Ep系マウスにおける脳アセチルコリン
の研究……………黒川 正則
中枢神経系とリントン白……………石川 晋次
レンズ核と錐体路の関係について……………白木 博次
家兎の実験的ヘルペス脳炎……………山本達也・他
少年非行性の諸要因に関する研究……………樋口幸吉・他
脳波の個人差の遺伝性……………井上 英二
交叉性小脳萎縮の臨床と病理……………秋元波留夫・他
老年者の脳血管性発作 (Cerebrovascular
Stroke) の鑑別診断に関する研究……………椿 忠雄・他
鎮静的脳手術……………佐野 圭司
東京大学医学部脳研究所のあゆみ……………黒川 正則
〔座談会〕日本における神経学の現在と将来
神経細胞の一般的統合について……………万年 甫訳

'63年8月 7巻4号 1200円

神経化学

〔第5回神経化学懇話会・序〕……………中 脩 三
〔シンポジウム 1〕

内因性精神病と精神薄弱の代謝障害

精神病患者血清の Phenothiazine 脱水

素酵素におよぼす影響……………木住野幸二・他
分裂病患者の体液と解糖抑制との関

連についての検討……………伊藤 斉・他

精神分裂病患者の尿中有毒因子に関

する研究……………藤 田 繁 雄

精神分裂病患者の尿中アミンと精神

薄弱患者の尿中アミノ酸……………武貞 昌志・他

小児の器質的脳疾患における血液の

酵素学的変化について……………中 脩三・他

実験的フェニールケトン尿症の神経

化学的研究……………塚田 裕三・他

兄妹に見られたフェニール焦性ブド

ウ酸精神薄弱症についての第1報

(妹の場合)……………東 漸・他

〔シンポジウム 2〕

脳細胞成分 (Subcellular units) の生化学

電子顕微鏡でみた神経細胞の Subcellular

Units について……………藤 原 忠

ミトコンドリアの電子伝達系の基本

単位 (基本粒子) について……………小 田 琢 三

脳細胞内成分の分離に関する形態学

的検討……………井上 章・他

脳のリボゾームの調整と検定につい

て……………山 上 栄

脳 Subcellular Units の物質分布に

ついて……………植村 慶一・他

脳 Subcellular Units における ATP

ase について……………荏原 光夫・他

γ -アミの酪酸(γ ABA)と脳顆粒……………佐 野 馨

兎脳における化学的伝達物質 (Cholinergic

および Non Cholinergic) の細胞

内分布……………井上 章・他

脳アセチルコリンの構成……………黒川 正則・他

〔一般演題〕

分離神経細胞に関する研究……………浜 中 昭 彦

可逆性グリア反応の限界と意義

(その1)……………中沢 恒幸・他

無細胞系における脳リン蛋白の研究……………織壁 永次・他

発生過程における実験的代謝異常……………宮本 侃治・他

頭部外傷の生化学……………荒木 千里・他

脳損傷と髄液ならびに血清中の酵素

変動……………高倉 公朋・他

覚せい剤中毒の生化学的研究……………江副 勉・他

中枢神経刺激剤の脳組織呼吸および

蛋白代謝におよぼす影響……………中沢 省三・他

向神経薬物と脳蛋白の相互反応……………清田 一民・他

脳内アンモニア処理における肝機能

の関与……………融 道男・他

脳代謝の動的観察……………相沢 豊三・他

L-DOPA (Dihydroxyphenylamine)

の脳切片における Active Transport

について……………蟹池 健一・他

β -フェニールエチルアミンの哺乳動

物体内における生成ならびにその

中枢作用……………中嶋 照夫・他

カテコールの痙攣作用……………松本 淳治・他

マウス脳内注射によって発現する

Catecholamines の抗 PicROTOXIN 痙攣

作用およびそのさいの脳内Catecholam-

ines, 5HT および GABA の役割……………斎藤 章二・他

γ -アミノ酪酸(GABA)と α -メルカ

プト酪酸(GMBA)について……………建 石 保 子

Homocarnosine (α -Aminobutyl-L-

Hystine) に関する研究(第1報)……………森 照胤・他

炭酸脱水素酵素阻害剤の抗てんかん

作用について……………谷向 広・他

肝臓におけるトリプトファン代謝と

視床下部自律中枢の役割……………嶋 津 孝

'64年1月 第8巻 第1号 1200円

末梢神経 (第4回神経病理懇話会)

実験的ビタミン欠乏症における末梢

神経病変……………陳 震 東

実験的アレルギー性神経炎 (EAN)

の研究……………松山 春郎・他

急性・亜急性多発性神経炎の病理……………松山 春郎・他

末梢神経の腫瘍の電子顕微鏡的研究……………太 田 邦 夫

第4回神経病理懇話会抄録および討論

〔原著〕

糖尿病患者の神経系障害に関する研

究……………高 須 俊 明

定位脳手術における頭蓋脳相関と

Forel-H 野を中心とした脳基底核

群の立体的位置関係に関する研究

(第1編)……………鈴 木 朗 夫

クロールブロマジンおよびレセルピン

投与のラッテ視床下部下垂体系神

経分泌に及ぼす影響……………藤 井 英 生